

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092900101		
法人名	社会福祉法人 ひじり会		
事業所名	グループホームさくら2番館		
所在地	福岡県小郡市八坂489-1 (電話) 0942-73-0084		
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 25 日	評価結果確定日	令和 4 年 3 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームさくら2番館は、小郡市八坂の味坂小学校のグラウンドの真向かいにあります。2階建ての2階に位置し、1階には、看護小規模多機能型住宅介護があります。居室は全室南向きで明るく広いリビングでは利用者様が自分のペースでゆったりと生活できるよう心和む快適な空間となっています。私達が大切にしている思いは「地域のために 地域とともに」です。ご利用者様が、住みなれた小郡の地で、地域とともに、安心してお過ごしいただけるように、そして、私たちスタッフが、地域とともに、ご利用者様をサポートしていくことができるように、この理念をスタッフ全員で共有しています。そして、ご利用者様お一人お一人の生活背景を大切に、これまでの生活を可能な限り継続していただけるように又、生きている喜びを感じていただけるよう役割を見出し生き甲斐を持っていたりできるように支援に努めています。現在、コロナ禍で難しいところもありますが、できるだけ願いや思いを実現できるように支援しています。また、長い廊下を生かした歩行訓練など、個別にリハビリメニューを考え取り組んでいます。利用者様の笑顔を見る事がスタッフにとって仕事の喜び充実感となります。もっとたくさんの笑顔が見れるよう努力していきたいと思っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 15 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

市街地にある事業所は鉄筋コンクリート造りの2階建ての2階にあり、1階に同法人の看護小規模多機能住宅介護がある。事業所前には小学校があり、地域に保育園や中学校、お寺や神社がある静かな環境にある。居室は全室南向きで、室内には写真や馴染みの家具などがある。居室前には歩行訓練ができる長い廊下があり、リビングには、ソファや利用者や職員が作成した季節感を感じさせる壁画や飾り物などが飾られており、事業所は利用者がくつろぐことができる環境づくりに努めている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域のために 地域とともに』の法人の理念を職員研修会で全員で共有を行っている。又、「家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活が送られる様思いやりを持って寄り添いながら支援します」という事業所理念を掲げ、支援するよう心掛けている。事業所の理念はユニット内などに掲示しいつでも目に入るよう工夫をしている。	法人全体の理念と事業所独自の理念がある。事業所の理念は職員皆で作り上げたもので、事業所内に掲げ、職員全員が共有し、理念を実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の移動売店の販売所として施設を提供し利用者様も売店を利用するなどして地域の方々と交流していたが、コロナウイルスが流行するとともに地域との交流が減ってきている現状である。最近では、感染者も落ち着き、感染予防をしながらあじさかフェスタ等、少人数で地域の行事には参加できている。	自治会に加入している。コロナ禍前は地域の夏祭りや餅つきなどに利用者と一緒に参加したり、事業所主催の夏祭りや文化祭、運動会や餅つきの行事に地域住民が参加していた。また、地域の保育園児が散歩の時に立ち寄りたり、小学生が遊びに来たり、中学生が職場体験に来て交流していた。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本来であれば、運営推進会議などで話し合いを行い、地域の皆様に向けた介護教室を開催するなど計画したいが、コロナ禍において、難しい。今後は、地域の方のニーズによって計画・実施できればと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響で運営推進会議は書面上での開催になることが多かった。日常生活の状況や行事等の報告を、意見や要望を頂きサービスの向上に努めている。11月には開催し、意見交換を行った。	コロナ禍前は運営推進会議を定期的に開催し、利用者やサービスの状況、活動状況等の報告のほか、地域住民代表者と意見交換をする等、情報交換の場にもなっていた。現在は書面にて開催し、意見等をとりまとめ、書面にて報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所担当職員に参加して頂き、意見等を頂いている。書面上の開催の際は電話等で話をしたり、相談等あるときには市役所に直接お話に行き協力関係が築けるよう取り組んでいる。	市の介護保険課や地域包括支援センターへ広報誌を持参したり、空室状況を報告したりと協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人本部開催の身体拘束廃止委員会への参加に加えて、事業所でも学び直しを行い委員会の内容を徹底するよう努めている。常日頃から拘束が行われていないか確認し身体拘束がないように努めている。拘束の具体的な行為について新人研修や勉強会・職員研修会等で学ぶ機会を設け、スピーチロックを含め、身体拘束をしないケアに努めるよう取り組んでいる。	居室は施錠していない。身体拘束を行わないケアを実践しており、利用者の外出傾向を把握し、職員による見守り強化を行っている。言葉による抑制がなかったか等も含めて、職員は法人全体の研修や事業所内の勉強会での学びを実践している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体的虐待のみならず心理的虐待等が行われないか確認し、未然に防ぐよう取り組んでいる。また、利用者の尊厳を傷つけたり残存機能維持の機会を奪ったりするような取り組みがないか確認している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については職員研修会や勉強会で制度について学ぶ機会を設けている。また、制度についていつでも触れることが出来るようにパンフレットを常備している。成年後見人についても資料を閲覧出来たり学ぶ機会を設けている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、契約時に説明している。パンフレットを整備し、職員は外部研修を受講し、伝達研修を行い、理解を深めるようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び重要事項説明書にて、内容の説明を行って不安のないように質問や意見を聞きながら対応をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口を重要事項説明書を通して、入居時に説明している。また、ご家族が要望等を気軽に話せる関係性の構築に努めている。	利用者が食べたい物を職員と一緒に買いに行ったり、担当職員が情報収集し、個別ケアに反映している。家族の面会時には積極的な声掛けを行い、意見等を聴けるように努めている。家族からは面会が中止になった時にテレビ電話での面会の希望があり、意見を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアカンファレンスやユニット会議等で職員からの提案や意見等を集め、利用者本位の運営が出来るように努めている。日頃より職員同士のコミュニケーションが円滑で言い合える職場環境は整っている。賞与時の自己評価表などにも記載している。	外部評価は管理者が作成した自己評価について、職員の意見を反映させている。法人は年に2回、職員が業務に対する意見を言える機会を設けたり、管理者は職員とケアカンファレンスやユニット会議の時に意見交換を積極的に行っている。職員は異動の希望や意見や提案を出し易い環境にあり、職員の定着率につながっている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が意欲をもって職務に当たることが出来るように職員も楽しみや、やりがいを持てるよう努めている。状況に応じて面談したり普段の会話から心身の健康管理に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に当たっては広く募集を行い、公正な採用選考を行っている。幅広い年齢や外国人の職員がご利用者に係わることでご利用者の生活環境が良くなるように努めている。	職員採用選考では、性別・年齢等で排除することはない。定年はあるが再雇用でき、教育や研修は全職員が学べる機会がある。職員が能力を発揮して向上心へとつながり、生き生きと働ける職場環境になるよう努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員にはご利用者の尊厳を守ることを教育している。カンファレンスでも一人一人の尊厳を大切にしたケアが行われているか確認している。	全職員を対象にした内部研修を行っており、人権教育や啓発活動に対する意識を共有し、日頃のケアで実践している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回法人本部で職員研修会を行っている。また、新人職員にはエルダー制度や研修を行いスキルアップに努めている。コロナウイルスの影響で研修等も少ない状況であるがzoom等を活用し、出来るだけ外部の研修にも参加できるよう努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会があれば、状況に応じてスタッフに参加してもらうなどの取り組みを行ってきた。しかし、今の時期、研修会や交流についてはできていないので、zoom等を活用し、今後頑張って質の向上を目指したい。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の生活歴や現在の様子、また、不安や要望等面談を通じて、把握するよう努めている。また、担当のケアマネジャーやソーシャルワーカーと連携し、ご利用者のニーズに応じられるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談がある場合には、ご利用前に必ずホームに来館していただき説明を行うとともに不安や希望もお聞きしている。また、積極的にコミュニケーションを図るよう心掛け、意見や要望が言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所のサービス以外（1階に看護小規模併設）の選択肢も視野に入れ、必要とされるサービスの情報が提供できるようにケアマネージャーやソーシャルワーカー等と連携を図っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やご利用者のこれまでの経験を生かした知恵などを通して支えあう関係であるように努めている。調理のお手伝いやその他、ご協力いただきながら共同生活を営むよう努めているが、重度化が進んでいるのも現実である。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃よりご利用者の状況をお伝えするよう努めている。ただし、コロナにより面会等制限がある為電話等を活用している。また、思いや意見なども、お聞きすれば可能な中で、ケアの変更などにつながるように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響により入居前の近所の方などのコミュニケーションは、なかなか難しいが、入居後もかかりつけ医への病院受診を行うなど、これまでの生活を継続した、馴染みの関係を支援している。	利用者の友人が面会に来たり、お墓参りに一緒に行くこともある。また、馴染みの店で食事をしたいという利用者に店でご飯を食べられるよう外出支援をする等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立される利用者がいらっしやらないようにレクリエーション等への声掛けを行い他の利用者との交流が出来るように促している。また、難聴等でコミュニケーションを図ることが難しい場合にはスタッフが間に入り円滑にコミュニケーションが図れるよう配慮し利用者同士が良い関係性を築けるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、ご相談等を出来るよう関係性に努めている。利用者様のみならずご家族のフォローする関係が継続していくことを説明し安心していただけるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人ひとりが希望される暮らしを本人や家族の思いや意向を聞き取っている。「散歩に行きたい」等利用者の要望に対応するよう心がけている。本人から直接思いを確認できない場合は日ごろの係わりの中から本人の思いや意向を感じ取って利用者本位の個別ケアが出来るように検討している。	職員は積極的に声かけをし、利用者や家族から意向等を聞き取り、「自宅に行きたい」「お墓参りがしたい」など、利用者の希望する暮らしの実現に向けて支援している。意思表示の難しい方は日々の関わりの中で、利用者の表情や言葉、仕草などから思いを汲み取るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、趣味や特技、これまでの生活スタイル等、ご利用者様やご家族から情報を集め、できる限りこれまでの生活を継続し、その方らしい生活が出来るよう取り組んでいる。利用前のケアマネージャーやソーシャルワーカーとの連携を図るよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前に聞き取りした情報を基本とし、生活していただく中で利用者様と接し、具体的な情報が収集できるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画には、かかりつけ医や職員等の意見を取り入れ、反映できるよう、また、本人や家族の希望に添えるようなプランを作成している。3~4か月おきにモニタリングを行い見直しをしている。また、入院時や状態変化があったときは随時見直ししている。	担当者・ユニットリーダー・ケアマネージャーが、課題分析表やアセスメントシートから利用者の生活状況を把握し、家族の意向や医療関係者の意見を取り入れ、月1回のカンファレンスの時に他の職員の意見を聞いて介護計画を作成している。3~4ヶ月毎にモニタリングを行い、利用者の状況変化に応じた計画の見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中のケアの実践や気づきなどエピソードで記録などを記入している。職員全員が情報を共有し介護計画を見直しに努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の生活の中での変化を、カンファレンスなどを通してアセスメントしている。良いと思うことは、意見を交換し合って、ご利用者のプランにつなげられるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、コロナ禍の折、地域資源を生かすといった内容の活動を実施できていない。今後は、これまでの生活様式が通用するのかも不透明であるため、検討しながら支援していきたい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院との連携を大切にしつつ、入所前から利用され、ご利用者や家族が希望される医療機関の受診をして頂いている。また、緊急時における協力病院との体制についても説明をしたうえで、安心して希望に添える医療機関を選択している。	受診については利用開始前に利用者・家族の希望を聞き取り、入所前から利用する医療機関を受診することがほとんどである。市内の受診は職員が付き添っている。緊急時における協力病院について説明をしたうえで、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1階施設の看護師等と連携を図り、些細な事でも相談し助言を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、医療機関（ソーシャルワーカー・看護師）、ご家族と密に情報交換を行い早期退院が出来るように連携している。また、退院時医師や看護師等からの助言を頂きながらケアを行い再発防止に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアの経験はないが、入居時に重度化や終末期の在り方についての説明を行っている。利用者やご家族の状況変化に細かな調整や協力病院やかかりつけ医等と連携し、重度化や終末期に対応できる体制を取ることが出来るよう努めている。	入居時に明文化した「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、終末期の意向確認書・同意書をいただいている。事業所で看取りは行っていないが、利用者の状態の変化に応じて、再度家族や協力病院・かかりつけ医と連携し、重度化や終末期のあり方について共有できるよう連携して支援している。年1回、本部で急変時の対応について研修を行い、職員に周知している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを通して、急変時や事故発生についての確認を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの作成を法人で行うことで見直しを行っている。定期的に防災訓練を行っている。地域との連携は、今後の課題である。	地震・風水害の防災マニュアルを作成している。年2回夜間と日中を想定した非常通報訓練、火災発生時の初期消火、避難誘導訓練を行っている。非常用備蓄は特にしていない。	災害時は、事業所内へ閉じ込められた場合において、事業所内に非常用食料・飲料水等の適切な備蓄と使用できる状態であるかが問題である。備蓄場所・備蓄内容・消費期限などの一覧表を作成し、職員全員への周知を検討してほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時に、個人情報保護についての確認を行っている。訪室、入浴、排泄等時には、プライバシーを損ねることがないように声掛けや対応に心掛けている。プライバシーに関わることは大声で話したりすることを慎むように努め、職員間でも注意しあっている。	接遇マナー、言葉遣い、スピーチロック等、一人ひとりの尊重とプライベートの確保についての研修を行っている。日常生活の中で本人の人格を尊重し、職員同士は「隠語」を使って本人を傷つけないように、さりげなく誘導、言葉かけをしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を尊重し、傾聴や自分の意思や希望を伝えることが出来るよう寄り添いコミュニケーションを図っている。また、意思表示が少ない方も可能な限り自己表現ができるよう声掛けの工夫や表情から読み取る等の取り組みを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	催事以外、1日の流れ、生活のペースとしての動きはペースはあるが催事以外日課の優先より、その日の天候やご利用者様の希望に沿って少人数もしくは個別の対応が出来るように努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時等、本人の好みの服を選んで頂ける等支援している。髪型に関しても本人の希望に沿ってのスタイルになることを重視している。自分で訴えることができない方も、カットサロンの協力にて、身だしなみやおしゃれが整うように努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の状況に応じて、食事の準備や片付け・野菜の皮むきなどのお手伝いを依頼している。季節を感じていただけるような食材を献立に取り入れたり、ご利用者様の意見を頂きながらマンネリ化しないよう改善に努めている。	献立は法人の栄養士に相談しながら、職員が毎週作成している。野菜の皮むき、ささがき、下ごしらえ、ランチョンマットや箸の準備など、利用者と職員が一緒に行っている。利用者に食べたいものを聞き取って、献立に取り入れたり、利用者と職員で干し柿づくりをしておやつに出したり、食事が楽しみになるよう配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては法人管理栄養士に相談を行っている。水分をあまりとりたがらないご利用者様には飲み物を工夫し水分摂取量が増えるよう支援している。また、食量や形態などは嚥下状態や咀嚼状態をよく観察し個々に応じた刻み・ミキサー・トロミ食を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、うがいをやっている。自分で不十分な場所は介助にて残渣物を除去している。また、月に1・2度回診にて歯科医師と連携を図り、食事に対するクオリティが向上するように必要に応じて受診を進めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、ご利用者様の排泄パターンを把握するように努めている。排泄パターンを把握することにより、排泄の失敗がないようにトイレの声掛け、誘導を行い、トイレでの排泄が出来るよう努めている。また、紙パンツ等の使用を極力避け布パンツに移行している。	排泄の自立に力を入れており、排泄チェック表をもとに利用者一人ひとりの状態に合わせた支援を全職員で取り組んでいる。車いすの方も定時にトイレでの排泄支援を行い、夜間も誘導している。リハビリパンツから布パンツに移行することができた事例もある。パッドの種類も尿量に応じて、職員が適切なパッドを選定している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、運動、水分補給を促し毎日排便状況の確認を行っている。便秘傾向があるご利用者様にはヨーグルトや牛乳等の乳製品やオリゴ糖の活用により自然排便に繋がるように努め、主治医に相談し服薬等の対応を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は、毎日できるように準備し、個人の希望を尊重しながら毎日、あるいは1日おきに入浴を提供している。また、ご利用者様の好みのお湯の温度を把握したり、冬至には昔からの習慣である柚子湯にしたい時には入浴剤を使用する等工夫しながら気持ちよく入浴していただけるよう努めている。また、羞恥心の配慮として1人ずつ入っていただき出来ない事のみ介助を行っている。	1日おきの入浴を基本として、必要な場合は設定日以外も入浴の対応はできる。ゆず湯、しょうぶ湯、入浴剤など利用したりして、入浴を楽しんでいる。入浴を望まない利用者には、その方の性格に合わせてスムーズな入浴ができるように、馴染みの利用者から声かけていただいたりして個々に沿った工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息の時間は個人差がある為個人の習慣を重視し好きな時間に就寝・起床をして頂いている。夜間不眠傾向の方は日中なるべく活動していただき安眠できるように支援している。利用者の状況に応じて、昼寝の時間を設けるなど個別の対応を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の内容がスタッフ全員が理解できるように薬の一覧表としてファイルし、いつでも確認できるようにしている。ファイルには薬の名前・写真・効能・注意事項・副作用等を記載している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において役割を持っていただくことによって生きがいや楽しみを感じて頂けるよう支援している。また、特技や趣味をする場を提供することで気分転換や残存機能の維持が出来るよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外の空気が吸えるように支援している。進んで外にでようとされない方にも声掛けを行い外出にお誘いしている。しかし、コロナ禍のため買い物や外食は難しい状況であるため少人数ずつで季節のお花を見にドライブに行く機会を設けている。	天気の良い日は積極的に声かけをして、近くの神社まで散歩をしている。コロナ禍で外食は難しいが、季節毎の花見などドライブやペランダでの日光浴を行うなど、気分転換ができるように支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心されるご利用者様がいる場合には家族の了承を得て所持していただいている。また、入居時にお小遣いをお預かりしているため、外出時など自分の好きなものを購入するなど自由に使用できるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用は可能な範囲で利用していただき必要に応じてスタッフが支援している。年賀状をスタッフが支援しながらご家族あてに書いていただいている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音光がないように配慮している。換気や加湿を行いながら適温・除湿が保てるよう調節している。食事をする場所やソファの場所はご本人の意思で確定されている場合もあり、馴染んだ場所で落ち着いて過ごしていただいている。季節感を感じて頂けるようご利用者様と一緒に壁画製作を行い飾っている。	共用の場所には、雪だるま、節など季節を感じる壁画を利用者と一緒に作成したり、折り紙、さげもん等が飾られている。リビングにはソファ、テーブルが置かれ、家庭的な居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを多く配置している。気の合った方とゆっくりお話をする環境や一人で日光浴をしながら読書をするくつろいだ環境を作る努め、1人ひとりが思い思いの時間を過ごしていただけるよう配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものや馴染みのあるものをもって来ていただくよう説明し、家具等以外にも写真等も持ち込まれている。居室内での安全な生活が出来るように利用者・家族と相談しながら配置などを考えている。	利用者の居室表札には季節の折り紙が飾られている。室内はベッド、マットレス、エアコン、洗面台が備え付けられている。ハンガーラックや衣装ケース、家族の写真、椅子、遺影等が持ち込まれており、安心して居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂など自分の残存機能を活かした生活が出来るように手すり等使用しやすいものを設置し、安全に生活が出来るよう工夫している。また、ネームプレートは利用者の目線に合わせて設置することで場所の確認や理解が出来るように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域のために 地域とともに』の法人の理念を職員研修会で全員で共有を行っている。又、「家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活が送られる様思いやりを持って寄り添いながら支援します」という事業所理念を掲げ、支援するよう心掛けている。事業所の理念はユニット内などに掲示しいつでも目に入るよう工夫をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の移動売店の販売所として施設を提供し利用者様も売店を利用するなどして地域の方々と交流していたが、コロナウイルスが流行するとともに地域との交流が減ってきている現状である。最近は、感染者も落ち着き、感染予防をしながらあじさかフェスタ等、少人数で地域の行事には参加できている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本来であれば、運営推進会議などで話し合いを行い、地域の皆様に向けた介護教室を開催するなど計画したいが、コロナ禍において、難しい。今後は、地域の方のニーズによって計画・実施できればと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響で運営推進会議は書面上での開催になることが多かった。日常生活の状況や行事等の報告を、意見や要望を頂きサービスの向上に努めている。11月には開催し、意見交換を行った。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所担当職員に参加して頂き、意見等を頂いている。書面上の開催の際は電話等で話をしたり、相談等あるときには市役所に直接お話に行き協力関係が築けるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人本部開催の身体拘束廃止委員会に参加に加えて、事業所でも学び直しを行い委員会の内容を徹底するよう努めている。常日頃から拘束が行われていないか確認し身体拘束がないように努めている。拘束の具体的な行為について新人研修や勉強会・職員研修会等で学ぶ機会を設け、スピーチロックを含め、身体拘束をしないケアに努めるよう取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待のみならず心理的虐待等が行われないか確認し、未然に防ぐよう取り組んでいる。また、利用者の尊厳を傷つけたり残存機能維持の機会を奪ったりするような取り組みがないか確認している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については職員研修会や勉強会で制度について学ぶ機会を設けている。また、制度についていつでも触れることが出来るようにパンフレットを常備している。成年後見人についても資料を閲覧出来たり学ぶ機会を設けている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び重要事項説明書にて、内容の説明を行って不安のないように質問や意見を聞きながら対応をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口を重要事項説明書を通して、入居時に説明している。また、ご家族が要望等を気軽に話せる関係性の構築に努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアカンファレンスやユニット会議等で職員からの提案や意見等を集め、利用者本位の運営が出来るように努めている。日頃より職員同士のコミュニケーションが円滑で言い合える職場環境は整っている。賞与時の自己評価表などにも記載している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が意欲をもって職務に当たることが出来るように職員も楽しみや、やりがいを有するよう努めている。状況に応じて面談したり普段の会話から心身の健康管理に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に当たっては広く募集を行い、公正な採用選考を行っている。幅広い年齢や外国人の職員がご利用様に係わることでご利用者の生活環境が良くなるように努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員にはご利用者の尊厳を守ることを教育している。カンファレンスでも一人一人の尊厳を大切にされたケアが行われているか確認している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回法人本部で職員研修会を行っている。また、新人職員にはエルダー制度や研修を行いスキルアップに努めている。コロナウイルスの影響で研修等も少ない状況であるがzoom等を活用し、出来るだけ外部の研修にも参加できるよう努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会があれば、状況に応じてスタッフ参加してもらうなどの取り組みを行ってきた。しかし、今の時期、研修会や交流についてはできていないので、zoom等の活用し、今後頑張って質の向上を目指したい。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の生活歴や現在の様子、また、不安や要望等面談を通じて、把握するよう努めている。また、担当のケアマネジャーやソーシャルワーカーと連携し、ご利用者のニーズに応じられるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談がある場合には、ご利用前に必ずホームに来館していただき説明を行うとともに不安や希望もお聞きしている。また、積極的にコミュニケーションを図るよう心掛け、意見や要望が言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所のサービス以外、（1階に看護小規模併設）選択肢も視野に入れ、必要とされるサービスの情報が提供できるようにケアマネージャーやソーシャルワーカー等と連携を図っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やご利用者のこれまでの経験を生かした知恵などを通して支えあう関係であるように努めている。調理のお手伝いやその他、ご協力いただきながら共同生活を営むよう努めているが、重度化が進んでいるのも現実である。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃よりご利用者の状況をお伝えするよう努めている。ただし、コロナにより面会等制限がある為電話等を活用している。また、思いや意見なども、お聞きすれば可能な中で、ケアの変更などにつながるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響により入居前の近所の方などのコミュニケーションは、なかなか難しいが、入居後もかかりつけ医への病院受診を行うなど、これまでの生活を継続した、馴染みの関係を支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立される利用者がいらっしやらないようにレクリエーション等への声掛けを行い他の利用者との交流が出来るように促している。また、難聴等でコミュニケーションを図ることが難しい場合にはスタッフが間に入り円滑にコミュニケーションが図れるよう配慮し利用者同士が良い関係性を築けるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、ご相談等を出来るよう関係性に努めている。利用者様のみならずご家族のフォローする関係が継続していくことを説明し安心していただけるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人ひとりの希望される暮らしを本人や家族の思いや意向を聞き取っている。「散歩に行きたい」等利用者の要望に対応するよう心がけている。本人から直接思いを確認できない場合は日ごろの係わりの中から本人の思いや意向を感じ取って利用者本位の個別ケアが出来るように検討している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、趣味や特技、これまでの生活スタイル等、ご利用者様やご家族から情報を集め、できる限りこれまでの生活を継続し、その方らしい生活が出来るよう取り組んでいる。利用前のケアマネージャーやソーシャルワーカーとの連携を図るよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前に聞き取りした情報を基本とし、生活していただく中で利用者様と接し、具体的な情報が収集できるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画には、かかりつけ医や職員等の意見を取り入れ、反映できるよう、また、本人や家族の希望に添えるようなプランを作成している。3~4か月おきにモニタリングを行い見直しをしている。また、入院時や状態変化があったときは随時見直ししている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中のケアの実践や気づきなどエピソードで記録などを記入している。職員全員が情報を共有し介護計画を見直しに努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の生活の中での変化を、カンファレンスなどを通してアセスメントしている。良いと思うことは、意見を交換し合っ、ご利用者のプランにつなげられるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、コロナ禍の折、地域資源を生かすといった内容の活動の実施できていない。今後は、これまでの生活様式が通用するかも不透明であるため、検討しながら支援していきたい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院との連携を大切にしつつ、ご利用者や家族が希望される入所前から利用されている医療機関の受診をして頂いている。また、緊急時における協力病院との体制についても説明をしたうえで、安心して希望に添える医療機関を選択している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1階施設の看護師等と連携を図り、些細な事でも相談し助言を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、医療機関（ソーシャルワーカー・看護師）、ご家族と密に情報交換を行い早期退院が出来るように連携している。また、退院時医師や看護師等からの助言を頂きながらケアを行い再発防止に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアの経験はないが、入居時に重度化や終末期の在り方についての説明を行っている。利用者やご家族の状況変化に細かな調整や協力病院やかかりつけ医等と連携し、重度化や終末期に対応できる体制を取ることが出来るよう努めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを通して、急変時や事故発生についての確認を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの作成を法人で行うことで見直しを行っている。定期的に防災訓練を行っている。地域との連携は、今後の課題です。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時に、個人情報保護についての確認を行っている。訪室、入浴、排泄等時には、プライバシーを損ねることがないように声掛けや対応に心掛けている。プライバシーに関わることは大声で話したりすることを慎むように努め、職員間でも注意しあっている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を尊重し、傾聴や自分の意思や希望を伝えることが出来るよう寄り添いコミュニケーションを図っている。また、意思の表現が少ない方も可能な限り自己表現ができるよう声掛けの工夫や表情から読み取る等の取り組みを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	催事以外、1日な流れ、生活のペースとしての動きはペースはあるが催事以外日課の優先より、その日の天候やご利用者様の希望に沿って少人数もしくは個別の対応が出来るように努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時等、本人の好みの服を選んで頂ける等支援している。髪型に関しても本人の希望に沿ってのスタイルになることを重視している。自分で訴えることができない方も、カットサロンの協力にて、身だしなみやおしゃれが整うように努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の状況に応じて、食事の準備や片付け・野菜の皮むきなどのお手伝いを依頼している。季節を感じていただけるような食材を献立に取り入れたり、ご利用者様の意見を頂きながらマンネリ化しないよう改善に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては法人管理栄養士に相談を行っている。水分をあまりとりたがらないご利用者様には飲み物を工夫し水分摂取量が増えるよう支援している。また、食量や形態などは嚥下状態や咀嚼状態をよく観察し個々に応じた刻み・ミキサー・トロミ食を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、うがいを行っている。磨き残してしまわれるご利用者様には介助にて残渣物を除去している。また、月に1・2度回診にて歯科医師と連携を図り、食事に対するクオリティが向上するように必要に応じて受診を進めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、ご利用者様の排泄パターンを把握するように努めている。排泄パターンを把握することにより、排泄の失敗がないようにトイレの声掛け、誘導を行い、トイレでの排泄が出来るよう努め排泄の自立につながるよう努めている。また、紙パンツ等の使用を極力避け布パンツに移行している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、運動、水分補給を促し毎日に排便状況の確認を行っている。便秘傾向あるご利用者様にはヨーグルトや牛乳等の乳製品やオリゴ糖の活用により自然排便に繋がるように努めたり、主治医に相談し服薬等の対応を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は、毎日できるように準備し、個人の希望を尊重しながら毎日、あるいは1日おきに入浴を提供している。また、ご利用者様の好みのお湯の温度を把握したり、冬至には昔からの習慣である柚子湯にしたり時には入浴剤を使用する等工夫しながら気持ちよく入浴していただけるよう努めている。また、羞恥心の配慮として1人ずつ入っていただき出来ない事のみ介助を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息の時間は個人差がある為個人の習慣を重視し好きな時間に就寝・起床をして頂いている。夜間不眠傾向の方は日中なるべく活動していただき安眠できるように支援している。利用者の状況に応じて、昼寝の時間を設けるなど個別の対応を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の内容がスタッフ全員が理解できるように薬の一覧表としてファイルし、いつでも確認できるようにしている。ファイルには薬の名前・写真・効能・注意事項・副作用等を記載している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において洗濯もの畳みや料理のお手伝い等、役割を持っていただくことによって生きがいや楽しみを感じて頂けるよう支援している。また、特技や趣味をできる場を提供することで気分転換や残存機能の維持が出来るよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外の空気が吸えるように支援している。進んで外にでようとされない方にも声掛けを行い外出にお誘いしている。しかし、コロナウイルスの影響で買い物や外食は難しい状況であるため少人数ずつで季節のお花を見にドライブに行く機会を設けている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心されるご利用者様がいらっしゃる場合には家族の了承を得て所持していただいている。また、入居時にお小遣いをお預かりしているため、外出時など自分の好きなものを購入する際に自由に使用できるよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は可能な範囲で利用していただき必要に応じてスタッフが支援している。年賀状をスタッフが支援しながらご家族あてに書いていただいている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音光がないように配慮している。換気や加湿を行いながら適温・敵湿が保てるよう調節している。食事をする場所やソファの場所はご本人の意思で確定されている場合もあり、馴染んだ場所で落ち着いて過ごしていただいている。季節感を感じて頂けるようご利用者様と一緒に壁画製作を行い飾っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを多く配置している。気の合った方とゆっくりお話をする環境や一人で日光浴をしながら読書をするくつろいだ環境を作る努め、1人ひとりが思い思いの時間を過ごしていただけるよう配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものや馴染みのあるものをもって来ていただくよう説明し、家具等以外にも写真等も持ち込まれている。居室内での安全な生活が出来るように利用者・家族と相談しながら配置などを考えている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂など自分の残存機能を活かした生活が出来るように手すり等使用しやすいものを設置し、安全に生活が出来るよう工夫している。また、ネームプレートは利用者の目線に合わせて設置することで場所の確認や理解が出来るように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		